

RSBUS-1 でハイパーターミナルを使用してデータ回収する手順

例) 1 c h 水位データの確認後、回収を行います。

測点番号 10、記録開始時刻 1999/05/25 12:00 20 分サブリンクの場合

(1) ご使用のパソコンと RSBUS-1 データ処理装置を R S 2 3 2 C ケーブルで接続します。

(2) ハイパーターミナルを起動します。



(3) メモリーカードを処理装置に挿入後、“ R E A D - W ” + E n t e r キーを入力します。
入力は、全て半角英数大文字で行います。



初期設定を行います。

(4)測点番号を入力します。

メモリーカードから情報を読み取り、デフォルト値 00 を表示しています。デフォルト値から変更の無いときはそのまま Enter キーを、変更するときは、2桁の番号 + Enter キーを入力してください。

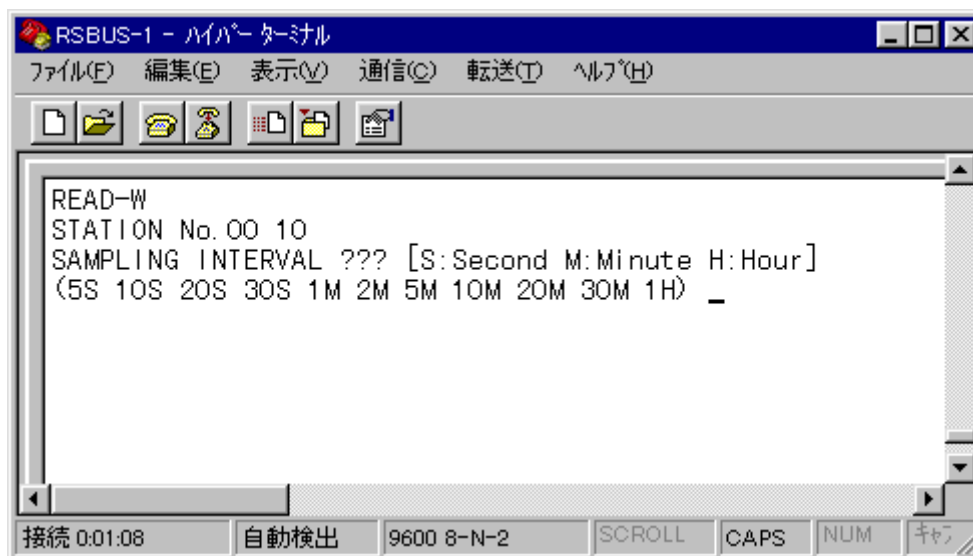
今回は“ 10 ” + Enter キーを入力します。



(5)サンプリングインターバル時間を入力します。

メモリーカード情報にインターバル時間が見つからなかった為、デフォルトは ??? を表示しています。カッコ内の文字を入力してください。

今回は“ 20M ” + Enter キーを入力します。(20分インターバル)

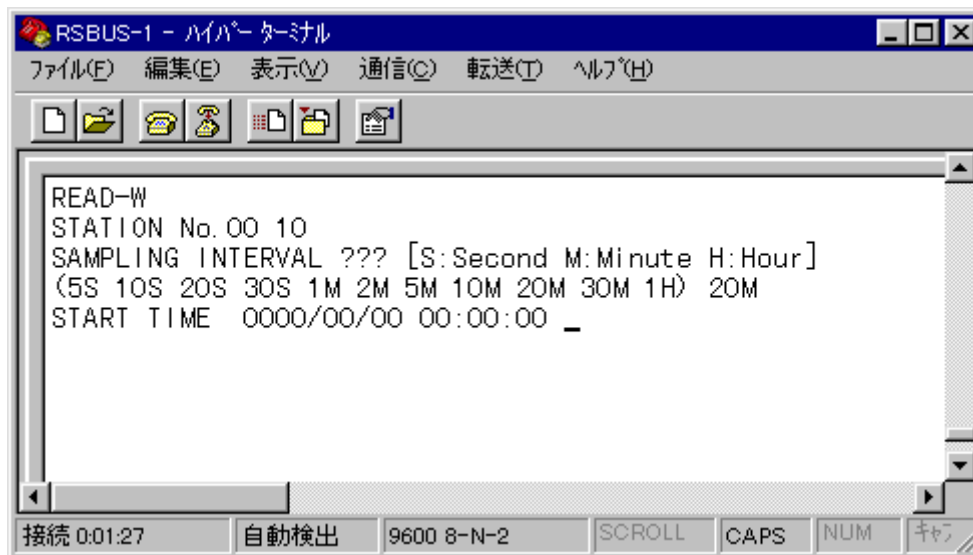


(6) 記録開始時刻を入力します。

メモリーカード情報に記録開始時刻が見つからなかった為、デフォルトは 0000/00/00 00:00:00 を表示しています。13桁の数値を入力してください。

今回は“19990525120000”+Enterキーを入力します。(1999年5月25日12時0分0秒)

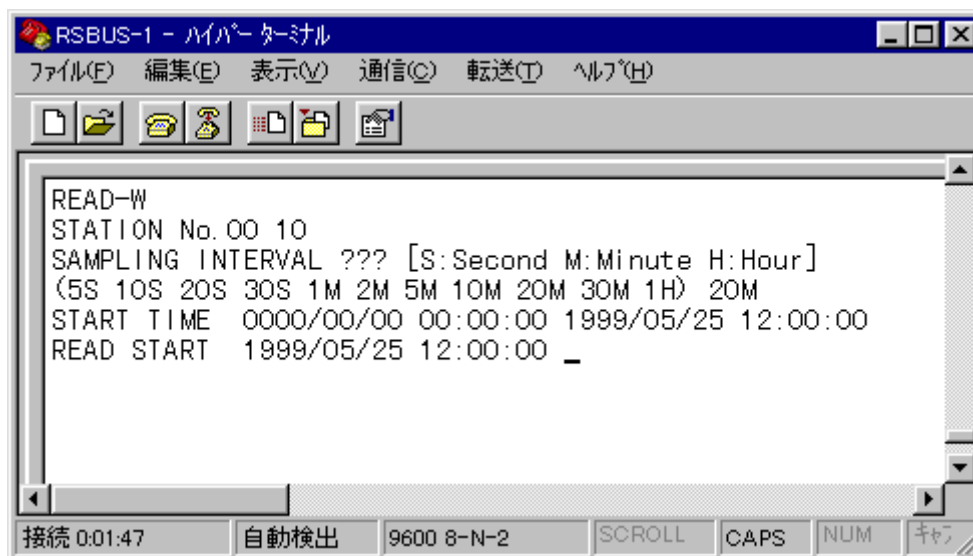
(“/”や“:”は自動的に表示していきます。)



(7) 表示開始時刻を入力します。

デフォルトは(5)で入力した記録開始時刻となります。任意の時刻からデータを表示したいときに入力してください。

今回はそのままEnterキーを入力します。



初期設定終了です。

データの表示開始です。

(8) 初期設定終了と同時にデータを最終まで連続的に表示します。

途中でスペースキーを押せば表示の一時停止・再開となり、その他のキーを押せば表示を中断します。



(9) データ表示終了です。



データ回収を行います。

(10) データを確認したので、回収を行います。

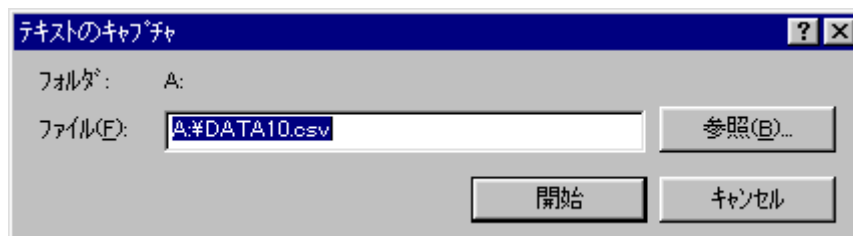
転送 テキストのキャプチャをクリックしてください。



(11) データの転送先を指定します。

Excel等で処理する場合は必ず拡張子に.csvを付けてください。

今回はAドライブのDATA10.csvファイルに転送します。



開始をクリックすると、それ以降画面に表示されたものは全てファイルに転送されます。

(1 2) 再び“ R E A D - W ”を入力し初期設定を行います。

この時、それぞれ前回入力した値がデフォルト値となっていますので、変更無ければそのまま E n t e r キーを入力していきます。



(1 3) データ回収を終了します。

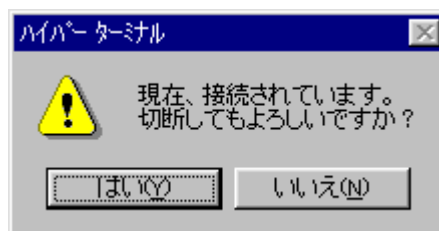
データの表示が終了すると、転送 テキストのキャプチャ 停止をクリックします。



(14) メモリーカードを処理装置より抜いて、ハイパーターミナルを終了します。

続けて別のメモリーカードの処理を行う場合は、(2)から始めます。

画面右上の×アイコンかファイル ハイパーターミナルの終了をクリックし、はいをクリックします。



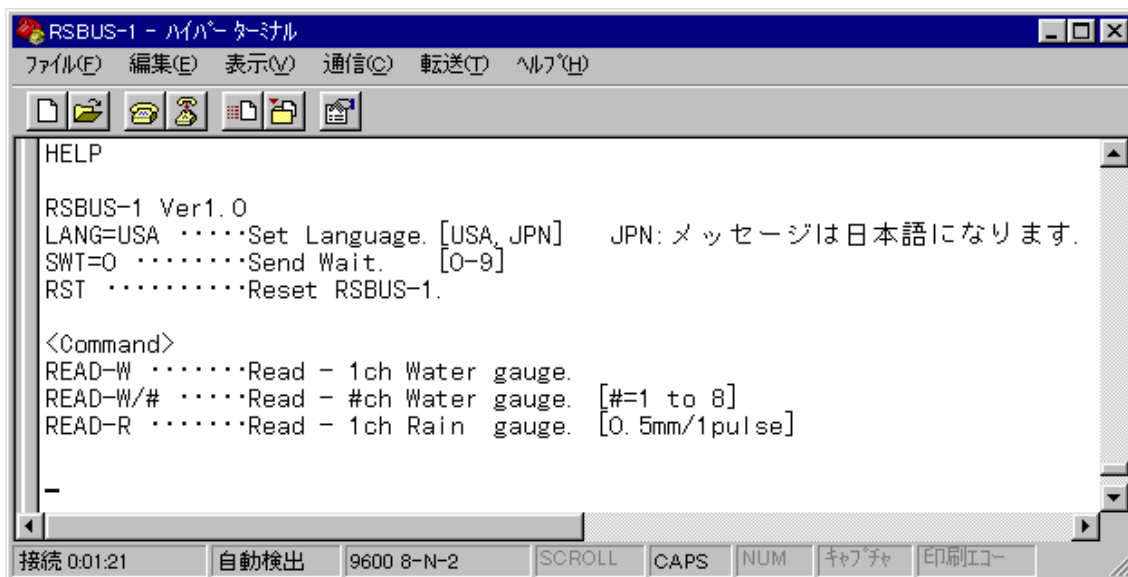
データの転送先にファイルが在るか確認してください。

RSBUS - 1 の設定内容とコマンド一覧の確認

(1) “HELP”(または“HLP”、“?”)+Enterキーを入力します。



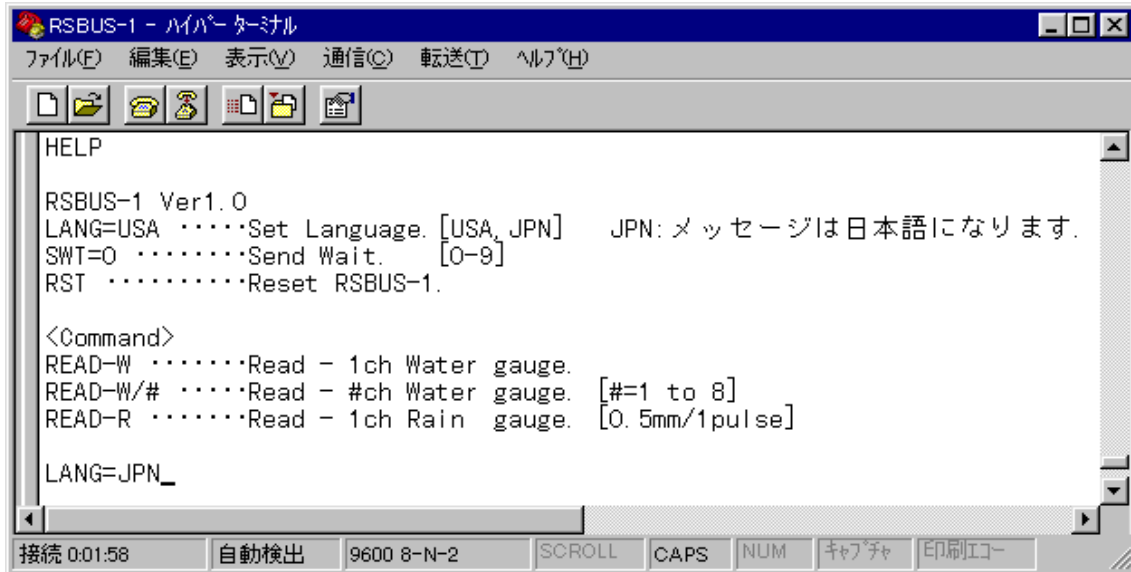
(2) 下記画面が表示されます。



設定内容の変更

例. メッセージを日本語にします。

(1) “LANG=JPN” + Enterキーを入力します。



The screenshot shows a HyperTerminal window titled "RSBUS-1 - ハイパーターミナル". The menu bar includes "ファイル(F)", "編集(E)", "表示(V)", "通信(C)", "転送(T)", and "ヘルプ(H)". The toolbar contains icons for file operations and communication. The main text area displays the HELP menu for RSBUS-1 Ver1.0, listing commands like LANG=USA, SWT=0, RST, and various READ commands. The current command entered is "LANG=JPN_". The status bar at the bottom shows "接続 0:01:58", "自動検出", "9600 8-N-2", and function keys like SCROLL, CAPS, NUM, キャプチャ, and 印刷エコー.

```
HELP

RSBUS-1 Ver1.0
LANG=USA .....Set Language. [USA, JPN]   JPN:メッセージは日本語になります.
SWT=0 .....Send Wait. [0-9]
RST .....Reset RSBUS-1.

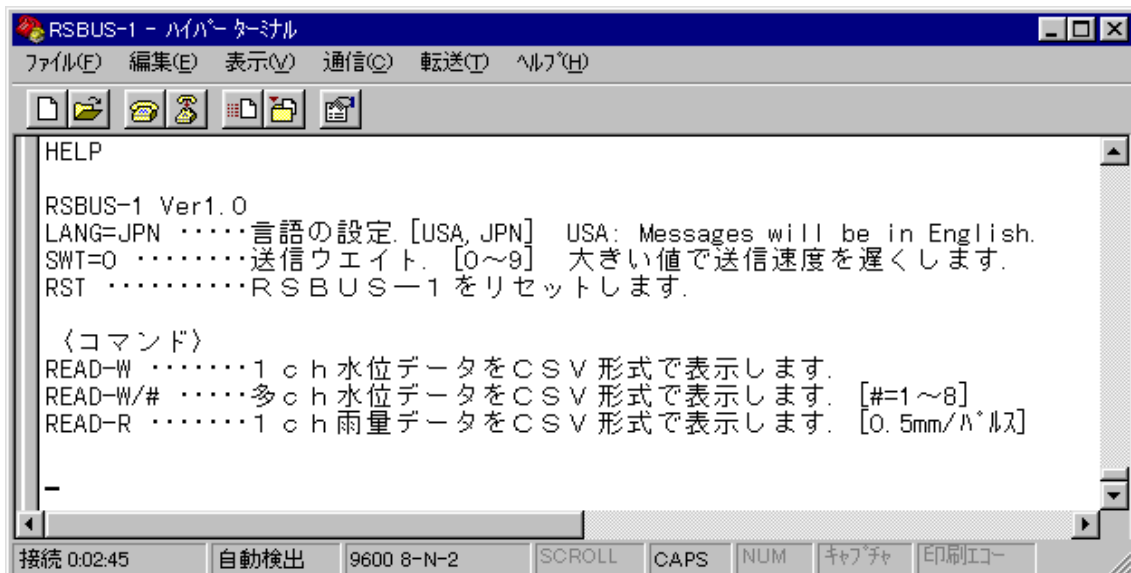
<Command>
READ-W .....Read - 1ch Water gauge.
READ-W/# .....Read - #ch Water gauge. [#=1 to 8]
READ-R .....Read - 1ch Rain gauge. [0.5mm/1pulse]

LANG=JPN_
```



“OK”と表示が出たら設定完了です。

(2) 再度HELPコマンドを入力するとメッセージが日本語になっています。



The screenshot shows the same HyperTerminal window, but the HELP menu text is now in Japanese. The command entered is a hyphen "-". The status bar at the bottom shows "接続 0:02:45", "自動検出", "9600 8-N-2", and function keys like SCROLL, CAPS, NUM, キャプチャ, and 印刷エコー.

```
HELP

RSBUS-1 Ver1.0
LANG=JPN .....言語の設定. [USA, JPN]   USA: Messages will be in English.
SWT=0 .....送信ウエイト. [0~9]   大きい値で送信速度を遅くします.
RST .....RSBUS-1をリセットします.

<コマンド>
READ-W .....1ch水位データをCSV形式で表示します.
READ-W/# .....多ch水位データをCSV形式で表示します. [#=1~8]
READ-R .....1ch雨量データをCSV形式で表示します. [0.5mm/パルス]

-
```